

参加した コース	富士の国地域探究コース（農林水産業みらいプロジェクトコース）			訪問国	カナダ
学校名	藤枝明誠高校	氏名	多々良大和	学年	高2

目的・応募理由

私の夢は茶の魅力を世界にもっと広めることです。両親が静岡でお茶屋を営んでいるため幼い頃からとてもお茶に慣れ親しんできました。そのため私はお茶が大好きです。しかし最近では急須で飲むという文化が廃れてきていて日本茶の消費量が減少傾向にあるという状態です。私はこの状況を知った時自分がこの状況を打破しなければいけないと強く感じました。そしてもっと多くの人に静岡茶を知ってもらうには国内だけでなく世界へと市場を広げることが必要だと感じました。そのためわたしは実際に海外に行ってどのような種類のお茶や飲み物が好かれているのかを研究し静岡茶の海外での可能性を探りたいと思いこの所留学を決意しました。

探求内容等

私は今回の留学ではとにかく様々な現地のお茶屋さんを巡ることで好まれる味や香り見た目などを探求しました。お茶屋さんでは店員さんとそれらのことについて話し合い多くのことを意見交換できました。そのなかで多くのお茶屋さんで人気だったのがコンブチャという発酵飲料です。コンブチャは茶葉と砂糖を発酵させる甘みのある発酵飲料なのですが店員さんの話によると発酵飲料ということで体にもよくかつ甘くて飲みやすいという理由で好まれているということがわかりました。そのため私は本来の静岡茶と外れてしまいましたが広めるという点から考えればこのような形のものを作るというのもひとつアイデアとしてあるのではないかなと考えました。またそれぞれのお茶屋さんで共通していたものとしてフルーツなどが入っていて香りが強かったということです。そのため静岡茶にも日本ならではの桜やみかんなどを入れてフルーティーにするのもありだなと考えました。



そして私は静岡茶の果たす海外での役割についても考えました。正直私が行ったカナダのバンクーバーの中でも治安が悪いところがありました。しかしお茶屋さんに入ると本当に心が落ち着き安心することができました。少し殺伐としたような街の中や時間に追われて息を付く間もないときにホッと安心できる空間を提供できる、それがお茶の魅力だと感じ、静岡茶の果たす役割だと感じました。その点から考えると日本に比べてあまり治安が良いところばかりではない海外でこそ静岡茶の真価が発揮されると考えました。

留学を終えて

留学を終えて3ヶ月後ほどに海外で知り合ったお茶屋さんの方が静岡に来る機会があったので両親のお茶やに来てもらって静岡茶を紹介したり母親が放棄茶園の茶葉を使った茶染めを行っているのをそれを体験してもらったりしました。また海外で人気のお茶など様々な有意義な情報交換をすることができました。

留学の体験、そしてこのような経験から私はまず自分が得て、感じてわかったことを自分なりにまとめて家業でお茶屋を営んでいる両親にフィードバックしました。また海外での静岡茶の販売の仕方を深く考えて将来は海外で静岡茶を販売するお茶屋をしたいと考えています。そのためには大学で商学を学ぶとともに静岡茶を含めた世界のお茶の歴史について深く学び多くの知識をつけていきたいです。

